

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生情報ビジネス専門学校北九州校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
高等学校	谷川 陽一	福岡県立小倉商業高等学校 校長	出席
保護者	野村 久美子	システムエンジニア科3年生の保護者	出席
地域住民	安部 久美子	地域住民代表	欠席
卒業生	川端 君佳	オフィスビジネス科令和2年度卒業生	出席
業界関係者	伊藤 洋平	株式会社パソナ安川ビジネススタッフ 営業課長	出席
業界関係者	上田 浩二	株式会社サークル・オブ・フレンズ 代表取締役	出席
業界関係者	河上 和弘	株式会社ジーン 第一開発事業部 事業部長	欠席
業界関係者	木ノ下 五郎	北九州総合病院 事務部 次長	出席
業界関係者	三宅 康夫	株式会社ラック 新規事業開発部 地域創生事業室 北九州エリア担当部長	出席
業界関係者	宮原 寿光	株式会社 RAID 代表取締役社長	出席
業界関係者	森田 良一	バリエントソフト株式会社 代表取締役	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2022年6月15日（水）16：00 ～ 17：30

場 所：麻生塾北九州キャンパス 小倉校舎 6階 603教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2021年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題や改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく達成度による下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

- S：達成度がきわめて高い
- A：ほぼ達成している
- B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）
- C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

- ① 職業実践専門課程の教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を充実させ、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像に沿ったカリキュラム内容の更新、向上を図る。
- ② デジタルに慣れ親しんだ学生の学びのスタイルに対応していくと共に、教育の標準化を図るため、教育のDX化に取り組んでいく。
- ③ 学生に対する学習活動、学校生活、就職活動についてのコロナ禍での支援強化。

【取組み状況ならびに成果と課題】

- ① 職業実践専門課程の委員会を通じて、継続的にカリキュラム内容の更新、教育効果の向上を図ってはいるものの、各学科のカリキュラム向上活動の根拠となる資料が存在していない。これまで口頭でのやり取りが中心で、正式な会議として実施していなかったが、今年度から各学科で月に一度を基本として学科会議を実施し、必要に応じてカリキュラムも議題とし記録を残した。これらを継続し、常勤講師に周知徹底するとともに、非常勤講師と情報共有することで、カリキュラム内容をさらに充実させていく。
- ② 2023 年度中に 100%完了の 3 か年計画で、「講義」科目のデジタルコンテンツ整備の完了が予定されており、麻生情報ビジネス専門学校北九州校として 2021 年度(初年度)の目標を 30%と定めて、常勤教員を中心にコンテンツ作成を推進した。成功ノウハウを共有し、教員のスキルアップを図れるよう DX 化をさらに推進する。
- ③ 学生に対する学習活動、学校生活、就職活動について、コロナ禍の状況の中、支援を強化することに努めた。昨年度より行っているオンラインでの学習環境確保のための学内PCの貸出を拡大した。学校生活では、授業料に関わる特別給付金についての学生への迅速な案内と手続き処理を行った。さらに、就職活動では、オンラインでの面接練習・履歴書添削など前年以上に学生への個別対応により支援することができた。

【委員の方からのご意見】

専門学校の授業内容が、入学当初に考えていたものよりも難しく、授業について行くことが困難な学生が多いように感じる。今回のデジタルコンテンツ作成は、高校生の科目体験や、転科した学生へのフォローなど、幅広く対応できるものであってほしい。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像について明文化され、学校グループのホームページへ掲載されたものを通じ、各教職員から学生・保護者・企業へ周知を図っている。

また学生便覧に掲載し全学生に配布しており、入学直後のオリエンテーションにより周知させている。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で入学直後のオリエンテーションが実施できず、新入生に対する法人の理念について周知が遅れたが、今年度は予定どおりの日程で、かつ対面でのオリエンテーションを実施することができ、法人の理念についてより効果的に学生への周知を行うことができた。

【課題と今後の取組み】

引き続きオリエンテーション等で周知徹底を図りつつ、学生便覧のデータでの配布を検討し、理念や学則を常に確認できる環境を用意する。

【委員の方からのご意見】

学生便覧は現状冊子でのみ配布しているとのことなので、今後はデータ形式での配布を検討してもらいたい。学生便覧のみならず、冊子のみで対応しているものはデータと冊子の両方を上手に利用してほしい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営できている。これらは校長代行からリーダー、各教職員へと周知し共有している。運営向上のための意思決定等は効率よく実行に移すことのできる仕組みになっている。運営に使用される業務管理システムも、改善活動が継続して行われ、変更の際にはシステムを使用する研修へ全教職員と事務職員で参加している。

今年度は、コンプライアンス体制の強化に加え、人事制度・評価制度を教職員の納得性の高い制度に改定するための地盤固めとして、労働時間管理体制・雇用管理体制の再構築を行った。

【課題と今後の取組み】

学校業務を支援する事務組織の役割分担を明らかにする役割表を前年度制作した。今後も業務の可変や異動等が発生した際に更新を行っていく。

2021年度で新制度構築の基盤が出来上がってきたため、感染症への対応や働き方改革などへの対応も含めて2022年度からは新しい人事制度・評価制度・給与制度の整理再構築を行っていく。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S	S

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

- ・教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。
- ・教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。
- ・教育の評価を適切に行っているか。
- ・成績評価と単位認定を適切に行っているか。
- ・教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。教育課程編成委員会などで企業等からご意見をいただき、業界ニーズにあわせた授業を実施するためにカリキュラムの一部を改変し、より充実した授業内容へと改善に努めている。また、カリキュラムの編成体制については、教育目標に添ってカリキュラムの企画立案に取り組んでいる。

授業シラバスについては、授業開始時の担当教員からの配付に加え、学生がいつでも確認できるよう各クラスに全科目分を集約したファイルを設置し、周知を図っている。さらに授業シラバスは学校のホームページでも公開されており、インターネット上で確認することもできる。

前年度はカリキュラム内容に関する打ち合わせを口頭のやり取りでのみ行い、正式な会議の記録が残っていなかったが、本年度は各学科で月に一度を基本として学科会議を実施し、必要に応じてカリキュラムも議題とし記録を残した。

【課題と今後の取り組み】

今後のカリキュラム再編時はコマシラバスを随時更新していく。常勤、非常勤を問わず、1コマごとの実施記録の記述を徹底し、大きな差異がでないよう継続的に整備する。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	A	A
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか。	S	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

学生のキャリアプランに関しては、入学時より教員及び就職担当が計画的に取り組んでいる。学科ごとに国家資格試験や各種検定の合格者数、コンテストの入選数を年度当初に設定し、共有及びフォルダに適切に保管を行っている。また、教育活動および学生支援の改善を図るために各担当者・学科内にて振り返りを行い、次年度のシラバス作成に活かし、改善活動に努めている。

卒業生の動向調査は、卒業生の来校時の情報提供、元担任からの報告から多くの社会的活躍が伝えられている。定期的に全国の卒業生にアンケートを行い、在籍動向及び評価の把握をおこなっている。

退学については、学生が退学を希望してきたとき、またはそれに近い状態になった際（欠席の増加など）に、三者面談を実施し、原因の調査・解決を行っている。

【課題と今後の取組み】

委員の方からの意見の通り、学科ごとのデータ収集をより明確にしていくことを目指す。また、就職部の負担の軽減も必要であり、より効率・効果的な情報収集の実施と改善に継続的に取り組む必要がある。教育活動に関しては、特にシステム系とゲーム系の学科は次年度からはさらに業界就職向けとなったカリキュラムに変更されており、新科目も追加されている。それらに関しては特に注意深く状況を観察していき、より大きな成果を得るよう努めていく。

【委員の方からのご意見】

学科ごとに専門職の求人数の多い学科と少ない学科があるはずなので、就職実績のデータを集計する際は専攻分野に関係する求人数と学生数の割合のデータを集計し、より明確なデータを集計するべきである。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	A	A
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	S	S

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生が安定した学生生活を送ることができるように、学校全体でサポートする体制を整備している。今年度も、学生に対する学習活動、学校生活、就職活動について、コロナ禍の状況の中、支援強化に努めた。昨年度より行っているオンラインでの学習環境確保のため、学内PCの貸出を拡大した。学校生活では授業料に関わる特別給付金についての学生への迅速な案内と手続き処理を行った。さらに、就職活動では就職部から独自の就職活動セミナーを実施しており、学生への支援をより強化している。

また、リモート学習の環境構築も進めており、これまで教科書やプリントのみで準備してきた科目はスライドや動画を使った教材を追加して作成し、学生が自宅でいつでもオンラインで学習できる環境を準備している。

【課題と今後の取組み】

先が読めないコロナ禍であるが、次年度についても「学びを止めない」という環境を整備、改善する必要がある。引き続きリモート学習の環境を構築、整備するため、科目ごとのリモート用の教材作成を進めていく。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

- ・教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。
- ・教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

教育施設・設備については教育上の必要性に対応し、かつ教育運営に支障を生じさせないように、毎年各分野担当者へのヒアリングを実施している。その後精査し必要に応じて整備、維持、管理している。教育機材と備品についても、数量不足や使用不備が発生しないように状況に応じて交換や追加購入を行っている。また図書コーナーに業界誌、就職活動参考図書等を設置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。

また分野によって異なるが、インターンシップを実施するにあたっては、実施要綱、マニュアルなどが整備され計画的に運用されている。またカリキュラムの一項目としてインターンシップについての科目があり、単位認定が認められている。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の一環として、入館時の検温、換気の徹底、教室内の消毒、マスク着用を義務づけるなど感染予防に努めた。

【課題と今後の取組み】

教育運営に支障を生じさせないように、必要性に応じ機材・備品は整備しているものの、それらを証明する台帳などが整備されていない。次年度は機材・備品台帳を作成し整備する。

またインターンシップはオンラインで実施されるものも増加してきており、今後そのような環境の変化に対しても対応していく必要がある。インターンシップや海外留学は外的要因により困難な状況が見込まれるが、継続的に教育環境の維持に努めていく。

【委員の方からのご意見】

今年度より PC の購入を義務化したことは良いことだと思う。業界に必要とされる知識や技術は日々新しくなるため、合わせて教育環境も更新してほしい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S	S
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S	S

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッションポリシーを募集要項にて公表し、適正に募集活動を実施している。選抜方法は募集要項に明記し、かつ選考基準を定め、適正に入学者選抜を行っている。

法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定を行っている。金額変更などの決定事項は議事録に記載し、校納金シートや募集要項へ正確に反映させるとともに関係部署への情報共有を行っている。

【課題と今後の取組み】

適正な募集活動の継続実施を行うため、選抜方法、選考基準等についても毎年見直しを図り、適正かつ公平な入学選抜の実施に努めていく。また、法人の財務状況などを考慮しながら適切に入学金、校納金の設定を行うとともに、妥当な学生納付金となっているか確認に努める。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。学校の財務面の管理運営については、予算計画を策定し、月次における予算決算管理および昨年度対比による財務分析を必要に応じて行っている。分析の中で重要な差異が生じた場合等には原因の特定や問題点の把握等を行い、適切に対応している。

監査は、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われている。財務情報は、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題と今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による財務分析等の取組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

専修学校設置基準、福岡県私立専修学校設置認可取扱基準を遵守した学内規程を整備するとともに、個人情報、ハラスメント防止、危機管理に関する事項についても関係法令に基づき規程を定め、学校として法令遵守の体制を整え、教職員へ周知している。

前年度はマニュアル更新から職場への反映までのプロセスが確立されていないため危機管理マニュアルの更新が滞る状況が発生していたが、本年度はリスクマネジメント委員の職員が逐次更新するよう確認作業を行っている。

【課題と今後の取組み】

関係法令に関する情報共有の継続と、教職員が定期的に研修会へ参加し、学内へのフィードバックを図る。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。
また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営については、自己点検・評価を実施し改善点を洗い出し、要改善項目を中心に改善活動を実施した。さらに、学校関係者評価の実施体制を整備し、会議にて改善のための意見をいただき外部よりの提言として学校運営に反映させている。

自己点検・評価及び学校関係者評価の結果はホームページにて公表している。

【課題と今後の取組み】

前年度は自己点検・評価活動の教職員への周知が不足していると判断し、本年度からは自己点検・評価報告書、改善計画・報告書などをメール等で回覧した。またその所在を明らかにするためにサーバー内の書類保存場所について周知するなど、情報の共有化を図っている。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

学校運営に必要と判断した団体には積極的に加盟しており、現在は、北九州市産業経済局企業立地支援課と常に連携し、協議も実施している。高校などに出向いての公開講座の実施、また、行政と連携した北九州高校生イラストコンテストを実施するなど社会的活動、地域貢献活動を行っている。

学生ボランティアは青少年ボランティアステーションから定期的に紹介していただき、学生へ案内している。学生へ案内する際は教務から学生ボランティア担当を 2 名選出し、担当を通して全学科の担任へ通知している。

【課題と今後の取組み】

次年度もコロナ禍では地域貢献活動等の実施が困難な可能性が高い。状況が好転すれば出張授業、来校連携授業なども実施する。実施された際には、第三者にもわかりやすいよう、明瞭な実施状況報告書を作成する。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S	S

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生受け入れにあたっては国際交流センターと連携し、法令を遵守し、適切に在留手続きを行っている。在籍管理、相談体制については日本人学生とほぼ同様に受け入れ体制を整備している。

また、在学中の学生対象の海外留学プログラムに対する支援を行っており、学生や保護者に対して説明会を行っている。実際に留学する際には安全管理規程を定め管理体制を整備している。

【課題と今後の取組み】

留学生の受け入れ、在籍管理に関する組織での担当を明確にするとともに、留学生とのガイダンス記録表の記載を継続的に行う。また海外留学希望者には引き続き案内とサポートを実施する。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
12-1-1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S	S
12-1-2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S	S
12-1-3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S	S

以上